



意見書

諏訪都市計画道路 3・4・20 号諏訪バイパス沖田大和線  
下諏訪都市計画道路 3・4・6 号高木東山田線環境影響評価  
準備書の縦覧に対し、次のとおり意見を述べます。

令和 3 年 4 月 19 日

長野県知事 阿部 守一 殿

住所(所在地)

氏名(名称)

(電話)



意見

アセス準備書では、理解を深めるために多数の図と表が使われている。間違いなく、それらの図が非専門家の理解を助けた。住民意見も、より深い理解をいただくために図や表を使うのは当然であろう。書式は自由との説明も受けた。図を含めて技術委員会に届けていただきたい。意見の内容は次のページ以降に示します。

② R3.4.19 9:10 H18 諏訪湖氾濫

(備考) \*この様式は、意見書を出される方の参考様式として用意しております。この様式を参考に住所、氏名、方法書の名称を必ずお書きいただき提出いただくようお願いします。

\*準備書についての環境の保全の見地からの意見を日本語により、意見の理由を含めて記載するものとします。

## H18年の諏訪湖水害 は理由になるか

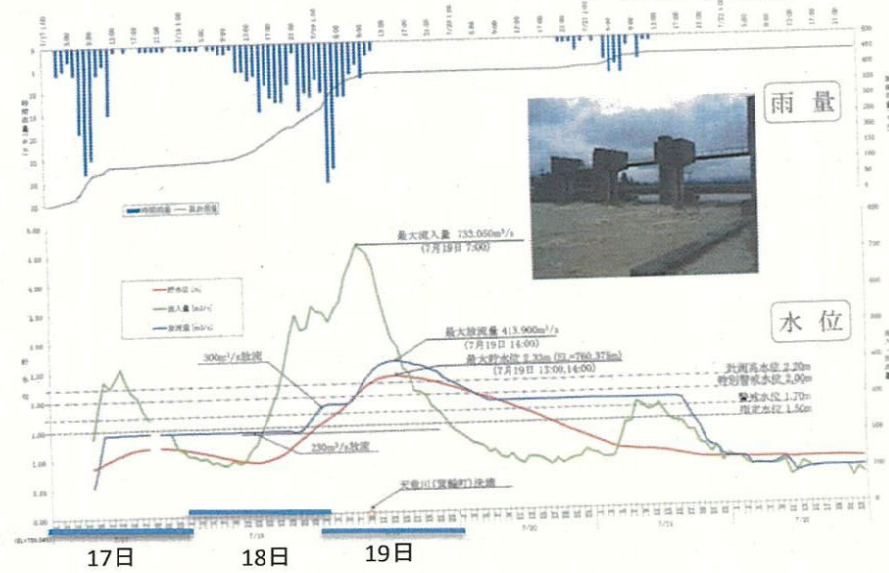
20号バイパスを建設する主な理由に、H18年の諏訪湖水害がある。S47年の目的にはなかった。中央道や湖周道路が開通し、しかも人口減少で渋滞が少なくなった20号に、新たに加えた名分である。問題はこの水害の危険性である。既に危険は回避されたと報告されている。もちろん、バイパスは役に立つ。しかし、水害が1000億円もかけて建設する大義名分になるのか。現20号の早期の改修の必要性がより高いのではないか。

H18豪雨を時系列で右に示す。図と諏訪市長の報告からわかるように、市長から再三の要請がありながら、当時の最大放流量の400m<sup>3</sup>/秒が、19日の06時頃になるまで実行されなかった。大雨洪水注意報は17日には出ており、20時には新川の氾濫も起きていた。230から300放流への変更は、やっと18日20時であり、その10時間後に慌てて300から400へと変更された。事態の急転で400に変更したと言われてもしょうがない。手遅れだった。18日20時の段階で、400での放流ができていれば、この水害は避けられた評価される。

建設事務所はこれを認めて、放流量の見直しをした。水位1.59mで300を350に、水位1.92mで400を430の放流に変更した。そして、430の放流をしていれば諏訪湖のH18年の洪水は起きなかったと結論している。下流で一ヶ所橋が流失したが、今は430を安全に流せる。H18年の水害は釜口水門の操作ミスであり、河川管理者から事情を聞いてほしい。まだ、最大の武器である事前放流も流域治水も使われていない。それが重要だろう。

(4) 釜口水門の水位・流入量・放流量、雨量状況

H24年 建設事務所報告



- 詳細は、上の図を見ればわかるが、
- 17日午前 強い雨が降り始める。
  - 17日07時 大雨洪水注意報発令 27mm/hrの時間雨量
  - 17日20時 新川が溢水(back-water)
  - 18日午後 雨が再度強くなる  
20号線、中央道の通行止め
  - 18日20時 釜口放流230m<sup>3</sup>/sから300に変更  
諏訪市長は300から400への変更を再三要望  
諏訪湖浸水始まる
  - 19日02時 諏訪湖警戒水位1.7mを超える  
早朝に 30mm/hrの雨量
  - 05時頃 岡谷で土石流発生 死者8名
  - 19日06時 やっと 300から400に変更
  - 19日12時 水位2.33mを超える  
大規模な諏訪湖の浸水発生

元諏訪市長 山田勝文 砂防と治水176号より





意見書

諏訪都市計画道路 3・4・20 号諏訪バイパス沖田大和線  
下諏訪都市計画道路 3・4・6 号高木東山田線環境影響評価  
準備書の縦覧に対し、次のとおり意見を述べます。

令和 3 年 4 月 19 日

長野県知事 阿部 守一 殿

住所(所在地)

氏名(名称)

(電話)



意見

アセス準備書では、理解を深めるために多数の図と表が使われている。間違いなく、それらの図が非専門家の理解を助けた。住民意見も、より深い理解をいただくために図や表を使うのは当然である。書式は自由との説明も受けた。図を含めて技術委員会に届けていただきたい。意見の内容は次のページ以降に示します。

③ R3.4.19 9:10 これまでの事故

(備考) \*この様式は、意見書を出される方の参考様式として用意しております。この様式を参考に住所、氏名、方法書の名称を必ずお書きいただき提出いただくようお願いします。

\*準備書についての環境の保全の見地からの意見を日本語により、意見の理由を含めて記載するものとします。

# トンネル掘削事故は起こる

凝固剤:クラウドの禁止

諏訪バイパスより先に開通した岡谷バイパスでは、トンネル掘削による事故が多発した。そのような事故が起きた理由、あらかじめ予想ができなかった理由、その時の対応の妥当性について技術委員会で議論してほしい。準備書で何度も言及する「観測修正法」がなぜ機能しなかったのか？

- (1) 湖北トンネル出水事故
- (2) 常現寺沢の減水
- (3) 毒沢鉱泉宮の湯の池と井戸の枯渇

(1) 湖北トンネル事故では、大量の土石がトンネル内に流出し、直径25mで深さ85mの穴が開いた。更にまずいことに、これを塞ぐために凝固剤を流し込んだが、多くは田畑や地下に流出した。上水道水源があれば確実に汚染した。

(2) 岡谷から下諏訪を結ぶ長地トンネルで、常現寺沢の水が減った。深いところを掘るトンネルがなぜ地上の沢の減水を起こしたのか。上流に井戸を掘って放流したと聞く。

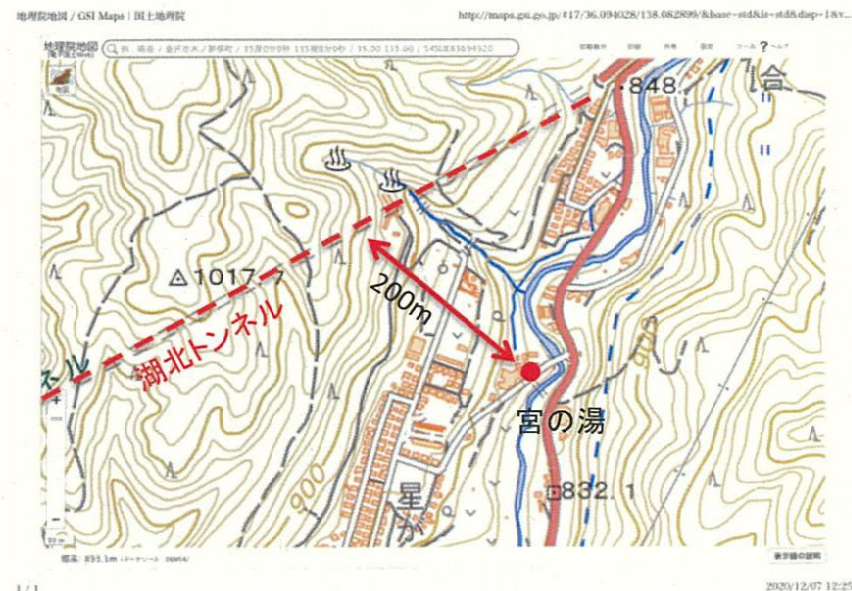
(3) 湖北トンネルの開通後に、ルートから200mの毒沢鉱泉宮の湯の池と井戸の水が枯れた。

近くのJR塩嶺トンネルでの大出水事故をあげるまでもなく、活断層の破砕帯を掘るトンネル工事では、専門家でも予想ができない出水事故が起こる。下諏訪温泉や諏訪五蔵の醸造水への影響が心配される。

飲み水や醸造水は、凝固剤やセメントミルクなどで一度汚染されれば回復不可能である。万が一の場合に備えて、これらの場所では使わないと約束すべきである。観測修正法が機能するとは考えられない。



岡谷バイパス完成記念誌より







意見書

諏訪都市計画道路 3・4・20 号諏訪バイパス沖田大和線  
下諏訪都市計画道路 3・4・6 号高木東山田線環境影響評価  
準備書の縦覧に対し、次のとおり意見を述べます。

令和 3 年 4 月 19 日

長野県知事 阿部 守一 殿

住所(所在地)

氏名(名称)

(電話)



意見

アセス準備書では、理解を深めるために多数の図と表が使われて  
いる。間違いなく、それらの図が非専門家の理解を助けた。住民意  
見も、より深い理解をいただくために図や表を使うのは当然である  
う。書式は自由との説明も受けた。図を含めて技術委員会に届けて  
いただきたい。意見の内容は次のページ以降に示します。

④ R3.4.19 9:10 下諏訪温泉の理解

Series of horizontal dashed lines for writing the opinion.

(備考) \*この様式は、意見書を出される方の参考様式として用意しており  
ます。この様式を参考に住所、氏名、方法書の名称を必ずお書きいた  
き提出いただくようお願いします。

\*準備書についての環境の保全の見地からの意見を日本語により、意  
見の理由を含めて記載するものとします。

## 準備書の温泉地下水の起源は間違い

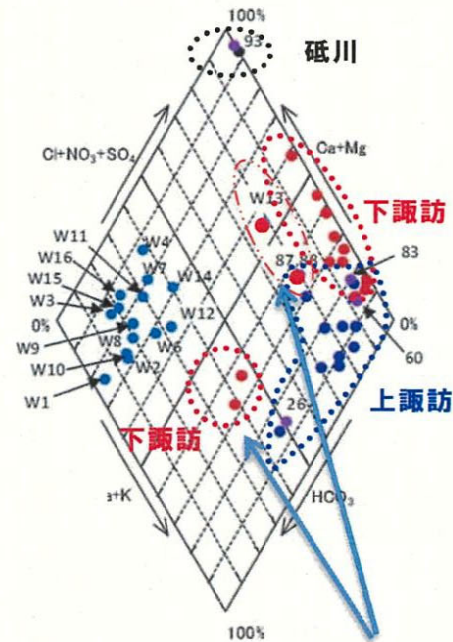
準備書や国道事務所が温泉事業者を訪問しての説明会で使った資料を検討する。そこでは次のように説明された。

- (1) 源泉は活断層に添って分布し、実施区域(トンネル)よりも深部の花崗岩を熱源とする。
- (2) 地下水を、山裾水と山地地下水と山地深層地下水に3類し、**山地深層地下水だけを温泉の起源とする。**
- (3) 上流の地下水を分析し、温泉とは水質が違うことから、影響はないとする。
- (4) 下諏訪温泉は深井戸であり深層地下水が起源である。工事による影響はないとする。

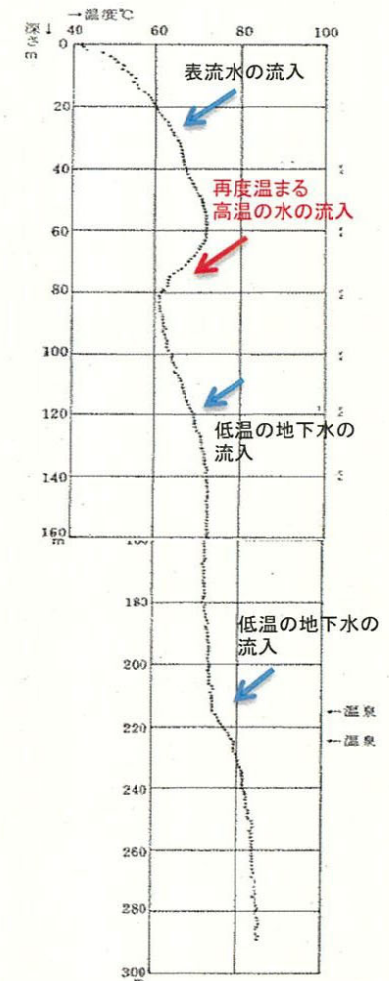
納得はできないだろう。下諏訪温泉の「綿の湯」と「旦過の湯」を例に取り上げる。井戸は確かに400mと深井戸である。しかし、綿の湯はGL-45mに、旦過はGL-7mに湯の水位があり深層水とは言い切れない。昔、温泉は自噴していたことも重要である。

深井戸である北浜井戸の温度分布を示した準備書の図11.6.2.24を見ると、(2)のような乱暴な分析が意味をなさないことがわかる。右図から、温泉井戸は複数の層の地下水を汲み上げていることがわかる。温泉は山地深層水だけで、浅いトンネル工事は影響を与えないとする結論はあまりにも単純すぎる。

さらに、温泉の水質を、より標高の高い観測孔の水質と比べて起源が違うと言う。標高の高い観測孔あたりの地下水が下流の断層に入り、高温により複雑な成分が溶け込んで温泉になるわけで、水質が違うのは当たり前。水質が違うから水源も違うと考えるのは妥当でない。図でW13(児湯)も87と88(旦過)も下諏訪温泉でありながら意図的か下諏訪温泉から除外している。温泉水と観測孔の水質は異なるが、霧ヶ峰からの地下水である。問題は、流れ下る経路である。



これらも下諏訪温泉である温泉の水質は複雑に分布する。図11.6.2.31を改良



準備書 図11.6.2.24 スクリーン位置に注意最深部の85度の湯は複数の層の地下水を取り込みながら45度で湧出することがわかる。



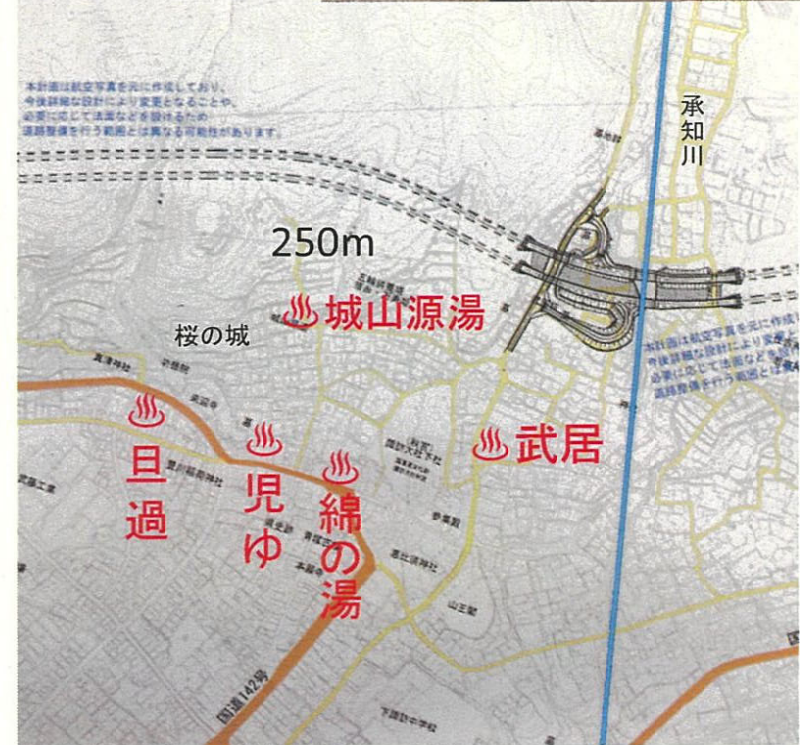
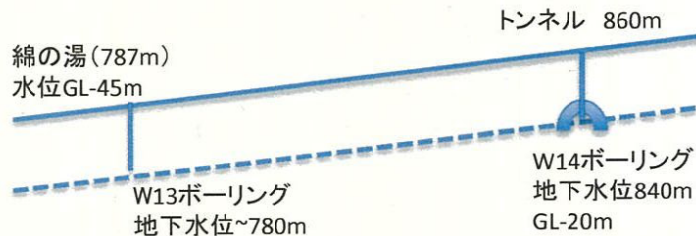
## 下諏訪源泉(秋宮)の特徴

下諏訪秋宮地区には多数の源泉が存在する。準備書で、「城山源湯」はトンネルから250mと近い。多数の温泉旅館が使う「綿の湯」と「旦過源泉」を取り上げる。両者はトンネルから400mと近い。綿の湯の湯量は毎分285リットル、諏訪湖を作った活断層破碎帯に地下水が流れ込んで湧き出ている。かつては自噴していた。問題はこの地下水の供給元である。地区から続く山側の霧ヶ峰山麓からの地下水であるが、どの層を流れ下っているかはわかっていない。詳細にボーリングで調べる必要がある。北浜井戸の例からも、複数の層の水や浅い地下水の寄与もある。

綿の湯の標高は787mであるが、お湯の水面は地下GL-45mにある。標高742mに相当する。旦過は標高787mで、湯面はGL-7mで780mと極めて浅い。一方、トンネルを標高860mで、深さを50mとすれば標高810mmとなるが、地層の傾き(下図)を考えれば、旦過や綿の湯などの湯層とトンネルの深さはどこかで重なる。他にも、武居(秋宮の手温泉)などがトンネルに近い。W14観測孔の地下水位もGL-20m(840)程度にあり、とても浅い。

この地域の400mの深井戸の底での湯温は100度に近い。温泉は複数の湯層の地下水を汲み上げ、50度程度の適温を得る。どの層を掘り抜いても影響を受ける。丁寧な複数のボーリングを行い、各源泉の湯層の深さと地質とトンネルの位置関係を調べる必要がある。

湯層に影響の少ない深さや位置や工法を選ぶべきであり、**ルートをもっと山側(高校上あたり)に移動することも考慮の対象**だろう。詳細な調査データで技術委員と議論してほしい。トンネルを掘ってみて、事故が起きたら対処する「観測修正法」とは敗北主義だ。



1920年代までは自噴していた。地表に近い地下水脈も含む。





意見書

諏訪都市計画道路 3・4・20 号諏訪バイパス沖田大和線  
下諏訪都市計画道路 3・4・6 号高木東山田線環境影響評価  
準備書の縦覧に対し、次のとおり意見を述べます。

令和 3 年 4 月 19 日

長野県知事 阿部 守一 殿

住所 (所在地)

氏名 (名称)

(電話)

意見

アセス準備書では、理解を深めるために多数の図と表が使われている。間違いないが、それらの図が非専門家の理解を助けた。住民意見も、より深い理解をいただくために図や表を使うのは当然である。書式は自由との説明も受けた。図を含めて技術委員会に届けていただきたい。意見の内容は次のページ以降に示します。

⑤ R3.4.19 9:10 諏訪五蔵の水源

(備考) \*この様式は、意見書を出される方の参考様式として用意しております。この様式を参考に住所、氏名、方法書の名称を必ずお書きいただき提出いただくようお願いします。

\*準備書についての環境の保全の見地からの意見を日本語により、意見の理由を含めて記載するものとします。

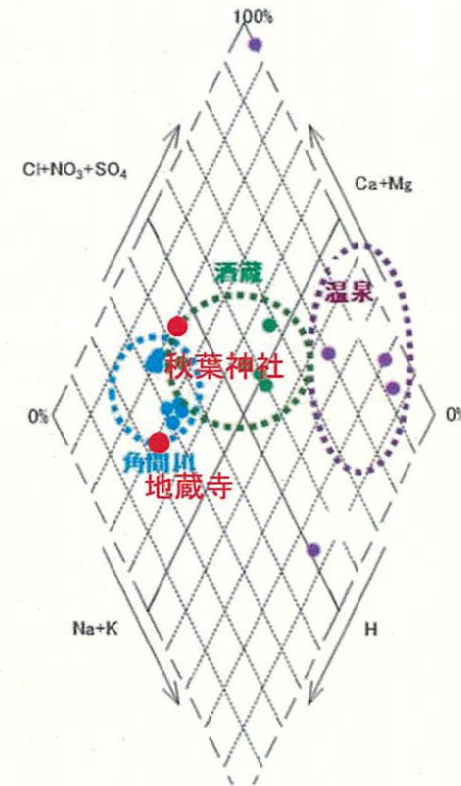


## 準備書での諏訪の酒蔵水の分析

準備書では、諏訪市の酒蔵の水を分析し、次のように結論する。図11.6.2.29のように、酒蔵の水質は角間川と温泉の中間にあり、温泉は深層地下水で、酒蔵の水は角間川の伏流水と温泉水の混合であると、しかし同図に、次ページの図11.6.2.30に掲載され、**工事により影響があると認めた地藏寺と秋葉神社の水質**を入ると、地藏寺も秋葉の湧水も角間川の浸透水に分類される。溶岩の急斜面から湧く地藏寺の湧水を、角間川の浸透水と考える人はいない。水源を水質から分析する場合、都合の良い作文になる。準備書を書いたコンサルには、それがわかっていない。

それでは何が信用できるか？ 地域に詳しい信大諏訪臨湖センターの宮原教授の論文では、同位体比の分析から、五蔵(真澄)の井戸の平均涵養標高を約1000mとする。この標高を角間川で辿ると2kmも離れてしまうが、五蔵の裏の福沢山は高さが1000mあり、そこには霧ヶ峰の湿原を源とする横河川が流れている。標高だけでは場所まではわからない。宮原は更に、五蔵や秋葉神社の水には硝酸態窒素が多く、それが横河川に非常に多いことも突き止めている。角間川の中流域には硝酸態窒素は少ない。これらの事実から、五蔵の水は、霧ヶ峰から踊り場湿原を經由して、横河川の源流域で湧出し、福沢山の裏あたりから地下水として地藏寺や秋葉神社や五蔵に供給されていると考えられる。溶岩が流れた地質構造も諏訪市内に向かって傾斜している。

地藏寺でのボーリングから、地下20~50mあたりに複数の水脈があり、トンネルの深さと重なる。準備書で、地藏寺湧水への影響を認める理由である。諏訪清陵高を挟んで右(秋葉)と左(真澄)に位置する井戸に影響が出る可能性は高いのである。



準備書の図11.6.2.29 の酒蔵群の水質に、地藏寺と秋葉神社を追加。地藏寺湧水は角間川の伏流水ではない。このような分析が作文であることがよくわかる。



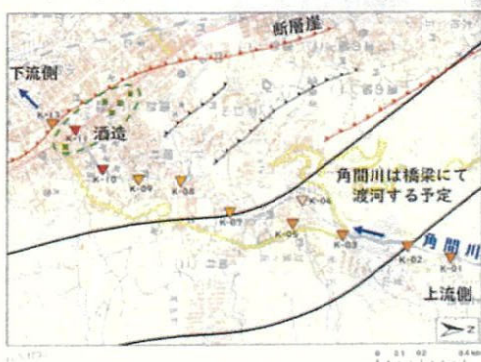
## 国道事務所の説明

国道事務所は、諏訪五蔵を訪問して、以下の資料を渡して、どのように説明したかを、補足資料として示す。

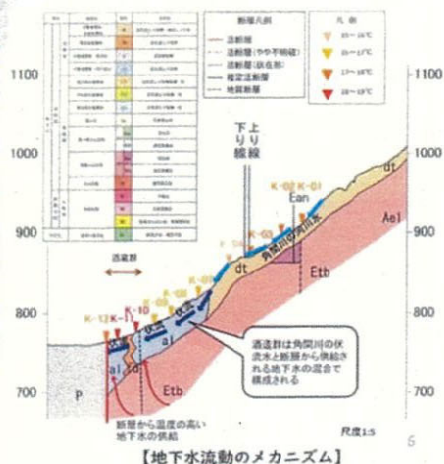
### 3. 参考資料①

#### 3.1 角間川沿いの地下水流動メカニズムと想定される影響

- ・酒蔵の水源は浅井戸であるが、その水質は、近傍を流下する角間川と活断層沿いに湧出する深層地下水との混合によって形成されている可能性がある。
- ・現在の計画ルート案は、角間川を橋梁で渡河する予定であり、山地深層地下水は計画ルートよりも深部を流動すること、事業区間と水源には約1kmの離隔が確保されることから、道路工事が酒蔵水源の水位・水質に直接的な影響を及ぼす可能性は低いと考えられる。
- ・ただし、現時点の調査において、影響は皆無であるとは言い切れないことから、今後の調査や、工事中のモニタリング等において、詳細の把握に努める。



国道事務所の酒蔵での説明会資料



角間川は簡易3面コンクリ張り構造

国道事務所は、酒蔵の水は、角間川の伏流水と山地深層地下水の混合である。深層水はルートよりも深部を流動すること、距離も約1kmもあることから影響する可能性は低い、と書いていた。大きな間違いは、より近い左岸斜面を流れ下る横河川からの地下水を無視していること、溶岩地帯を数10kmも流れ下る伏流水は普通で、1kmを遠いとするミスである。

酸素と水素の同位体分析によると、真澄(五蔵)の水の平均涵養標高は約952mで、角間川の伏流水とする国道事務所の結論とは合わない。また、角間川は過去の土石流災害から簡易3面コンクリ張り、伏流水はかなり抑制されている(準備所12.1(24))。角間川の左岸斜面から流れ下る地下水がより重要である。同位体分析と硝酸態窒素分析から明白である。影響を認めた地蔵寺のボーリング調査で、GL-25mや-33mに水脈が確認されており(地蔵寺国道文書)、斜面の地下30mあたりを複数の地下水が流れ下っている。トンネル標高を850mで深さが50mとするなら、影響を与えるのは確実だろう。福沢山から五蔵までの複数の地点で、地層の層序と水脈を調べ、地蔵寺と五蔵井戸との繋がりを検証すべきである。多数のボーリングも必要だろう。地蔵寺の湧水は1000リットル/分と多量であり、間違っこの水脈を掘り抜くと大きな出水事故になる。この出水を止めるために凝固剤が使われると、少し離れるが五蔵の水に影響する。この地域の工事では凝固剤を使わないと約束し不可能なら地上か高架にすべきである。他方で、トンネルを深くすれば南沢水源井戸に抵触する。



## 諏訪の真澄井戸と地勢

要約書の評価(表11.1(23))で、酒蔵群の水源については以下のように書かれる。酒蔵群の水源は、角間川下流域の活断層隣接域に集中して五蔵が分布。水源は、いずれも浅井戸で、高橋の水文学的方法によるトンネル集水範囲外に位置します。その水質は、近傍を流下する角間川と活断層沿いに湧出する山地深層地下水の混合であると考えられます。角間川は橋梁で渡河され、山地深層地下水は実施区域よりも深部を流動すると考えられます。よって、事業実施により酒蔵群の水源の水位はほとんど変化しないと予測されますと、五蔵への影響は否定する。他方で(表11.1(24))、角間川下流域の地蔵寺と秋葉神社の湧水は実施区域の山裾側に位置し、湧水量が変化すると予測されますと、湧水への影響を認めている

準備書の水象の図11.6.1.1でもわかるように、角間川に流れ込む多数の支流の重要性の認識が低い。右図のように、角間川は左岸から多数の支流が流れ込み、右岸にはほぼ存在しない。角間川の中流域を流れる河川水は、左岸からの湧水の寄与がある(雨ではなく地下水)。事実、地蔵寺や南沢水源や五蔵の地下水は、酸素と水素の同位体分析から、その涵養の平均標高が約1000mと高い(諏訪市調査と宮原論文)。支流の分布からも、尾根の裏の標高1000mを流れる横河川の寄与が大きいと考えられる。準備書では、山地深層地下水の具体的な起源の説明はない。もう一度、技術委員会できちんと議論してほしい。真澄井戸(社外にある)は清陵高校を挟んで秋葉神社の反対で、どちらも山麓にある。一方にだけ影響を認めるのは無理がある。

市街地の山麓に湧く地下水は、霧ヶ峰に降った雨が、踊り場湿原に集まり、そこで地下に浸透して、角間川や横河川の源流で湧出する。同位体分析から、その湧水が標高1000mあたりの河床で再度地下浸透して地蔵寺や南沢水源井戸や五蔵の水源となっていると考えられる。硝酸態窒素の量から、硝酸の少ない角間川ではなく、多い横河川とわかる(横内)。準備書では、地蔵寺湧水と秋葉神社の湧水量が変化があると予測されます、と、影響を認めながら、同じ横河川の起源である醸造井戸や南沢水源には影響はないとしている。地形との位置関係を見ると、浅井戸である醸造井戸への影響を避けがたい。四賀ソーラーのアセスで議論されたが、事業者は参照していない。



角間川は左岸からの多数の溪流(地下水)の寄与がある





意見書

諏訪都市計画道路 3・4・20 号諏訪バイパス沖田大和線  
下諏訪都市計画道路 3・4・6 号高木東山田線環境影響評価  
準備書の縦覧に対し、次のとおり意見を述べます。

令和 3 年 4 月 19 日

長野県知事 阿部 守一 殿

住所(所在地)

氏名(名称)

(電話)



意見

アセス準備書では、理解を深めるために多数の図と表が使われている。間違いなく、それらの図が非専門家の理解を助けた。住民意見も、より深い理解をいただくために図や表を使うのは当然であろう。書式は自由との説明も受けた。図を含めて技術委員会に届けていただきたい。意見の内容は次のページ以降に示します。

⑥ R3.4.19 9:10 地藏寺秋葉真澄

Series of horizontal dashed lines for handwritten input.

(備考) \*この様式は、意見書を出される方の参考様式として用意しております。この様式を参考に住所、氏名、方法書の名称を必ずお書きいただき提出いただくようお願いします。

\*準備書についての環境の保全の見地からの意見を日本語により、意見の理由を含めて記載するものとします。







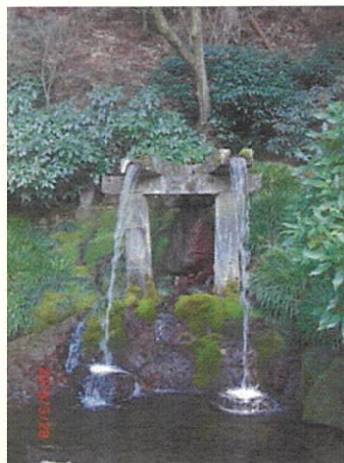
右図に、準備書で影響を認めた地蔵寺、秋葉神社と影響を認めなかった諏訪五蔵の真澄の井戸の位置を示す。真澄井戸は、五蔵の中でもとりわけ山麓に近いことに注意が必要である。秋葉社は清水町にある。

諏訪市が行った化学的分析結果で、地蔵寺も秋葉神社も真澄井戸の水も、平均涵養標高は1000m前後である。角間川の標高1000mは2kmも離れるので、近くの角間川ではなく、福沢山の裏を流れる横河川の標高である。水質も年齢も、横河川からの地下浸透水と考えると矛盾はない。近くを福沢川も流れる。

**なぜ、地蔵寺と秋葉神社への影響は認めて、五蔵への影響は認めないのか、準備書の不思議な結論である。**

ここで、横河川からの地下水であると認めたとしよう。地蔵寺で見つかった複数の水脈は、福沢山の複数の火山地層と関係している。問題は地蔵寺と同じように、五蔵の地域でも複数の水脈があり、それがトンネルの実施区域のどの深さと関係するかである。真澄井戸と福沢川あたりでの水脈の調査が重要であることがわかる。福沢山を地下で超えて流れ出しているのが福沢川であり、地下水の構造は角間川を含めて複雑なはずである。

飲料水や醸造水を一度汚染させたら、回復は不可能である。この実施地域では、**コンクリミルクや凝固剤の使用をしないのは当然として、水脈を切断することがないように慎重な調査が必要である。必要なら、迂回、地上での通過が望ましい。**技術委員と検討してほしい。



地蔵寺湧水:岩肌から直接1000L/m出る



福沢山





R3.6.7 8:30  
+u 受付 2-1

意見書

諏訪都市計画道路の変更案（長野県決定）に対し、次のとおり意見を述べます。

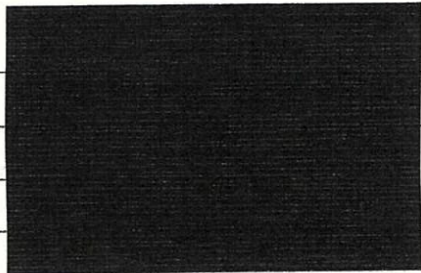
令和 3 年 6 月 7 日

長野県知事 阿部 守一 殿

住 所

氏 名

利害関係



Series of horizontal dashed lines for writing the opinion.

意見 3-6-11立石線は住民に理解が得られているのか？

わかりやすいように、次のページに図を入れて意見を述べました。この意見書を、図を含めて、審議委員に、そのまま届けてください。要約されることを希望しません。3-6-11 立石線は住民に支持されているのか。審議の結果と資料を示していただきたい。

Series of horizontal dashed lines for writing the opinion.

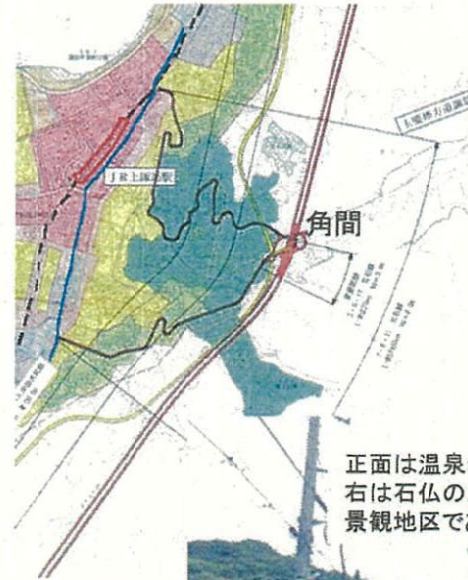
## バイパスは接続道路で価値が決まる

50年前の旧ルート約80%をトンネルにし、山側に移す詳細ルートが示された。バイパスは接続道路によって利便性や価値が決まる。下社秋宮と武居地区での接続道路の無さは大問題であり、両地区から要望が出ている。ここで取り上げるのは上諏訪の接続道路である。バイパスを角間で降りた大型トラックやバスは20号線の元町交差点に向かう。しかし、元町の交差点は、JRの踏切と並んで、この地域では最も渋滞する場所である。それでも大型車もバスも通ることはできる。

問題は、都市計画審議会でも議論されたらう、残り半分の立石線である。50年前に立案された時、この接続道路も考えられたようだ。説明会では、バイパスと同時に立石線も出てきた。本線の4車線化に伴う角間交差点の拡張による接続部分の変更だった。温泉寺に至る道路の説明はなかった。立石線は幅8mの道路として立案されている。審議会の委員には、どのような説明があったのだろうか？

3-6-11立石線は、角間から降りた車が、立石から温泉寺を經由して、上諏訪駅北のJR踏切脇に出る道路だ。しかし、本当に8m道路として実現できるのか？ そもそも計画は地元の住民に支持されているのか？ 意味があるのか？ この道路について審議会はどのような情報を与えられ、どのような審議が行われたのかを公表して欲しい。計画はされたが50年も塩漬けである。現在は、住民の誰も希望していない道路のように思える。

バイパスの本線の審査であって、関係ないと言うのだろうか？ このようなゾンビが存在するからこそ、諏訪市民は50年も、このバイパスを凍結してきたのだらうと思える。Street-viewで見たい。この道路の議論の結果を公表して欲しい。バイパスとその接続道路は一体で、その価値は利便性で決まる。踏切に出ても左折はできない。



説明会で配られた都市計画変更図面。トンネル化と4車線化により、角間交差点は大きな変更を受ける。問題は、その先である。この立石線の温泉寺側に意味があるのか？ どこで議論され、住民は支持したのか？



正面は温泉寺  
右は石仏のお堂  
景観地区である



立石線は断層の崖の急斜面の上の狭い道で、軽自動車でもすれ違いが難しい。急カーブの連続であり、大型車やバスの通過は絶望的。高島藩の主要な社寺が集中する。本気で幅8m道路案は生きているのか？







## 取り付け道路とバイパス

諏訪バイパス(案)のトンネルを出て、諏訪大社下社の春宮や秋宮から、大型車で20号線へ抜けることは絶望的である。春宮では142号に接続できるが大回り、秋宮や武井地区から20号に下るには、秋宮の境内を切り崩すか境外掘削を壊すか、歴史的な景観に影響なく接続道路はできない。利点があるようで無いのが上諏訪の角間での接続道路である。角間からトンネルを出ても、元町の交差点が絶望的。地藏寺や寺町や真澄などの古い歴史的な景観と酒蔵群があり、糸-静構造線断層崖の急斜面では取り付け道路の拡張は困難である。ましてや温泉寺に抜ける道路は誰が考えたのだろう。この無謀な案が昭和47年から50年間も塩漬けにしたのである。

にもかかわらず、バイパスに意義を認めるとしたら、通過道路としてだろう。春宮や秋宮や武井地区では、中大型車の出入りを禁止しての利用である。武居地区にバスが降りたらどこにも抜けられないからである。

そこで、中型以上のトラックが、現在どのような行動をしているかを複数のドライバーに聞いてみた。茅野坂室から下諏訪や岡谷に向かうトラックである。JRの踏切が2箇所もあり、20号線の元町の渋滞を避けるとした場合、添付の地図を見ていただきたい。

荷主にお金があれば、当然に諏訪インターから岡谷インターに直行である。時間も早い。坂室トンネルまでは2車線だから、そのまま上社前、西湖岸道路(茅野岡谷線)で岡谷に至る。上諏訪や下諏訪に用がある場合は、諏訪辰野線で、角上商店前を北上、湖岸道路に出て東に向かうか西に向かうかを決める。いずれにしても、20号線の踏切や上諏訪駅や秋宮前は通らないのである。

今後を考えると、諏訪湖SAにスマートインターができ、西湖岸道路の利便性は向上するから、茅野岡谷線の中央高速下の交差点と諏訪四賀線の堤防上の道路の整備が急がれる理由である。

つまり、現在のドライバーは上諏訪や下諏訪に用がある場合でも、JRの踏切があり元町が渋滞する20号線は使わない。事実、上諏訪駅前には人口が減り空洞化し交通量が減った(茅野は増えた)。多くの商業施設は諏訪インターや下諏訪町の湖岸道路に集中し、20号は使わない。ホテル紅屋前は観光シーズンには渋滞するが、日常的な渋滞は通勤者によるものだけである。商用トラックの物流が遮断されるような渋滞は起きない。諏訪辰野線は拡張と整備がほぼ終わり湖岸道路まで通じた。市街地への接続道路がない諏訪バイパスを中大型車は選ばないだろう。これがドライバーの本音である。昭和47年の原案が実現しなかったことも、JRが未だに単線であることも、バイパスの実現の困難を証明している。

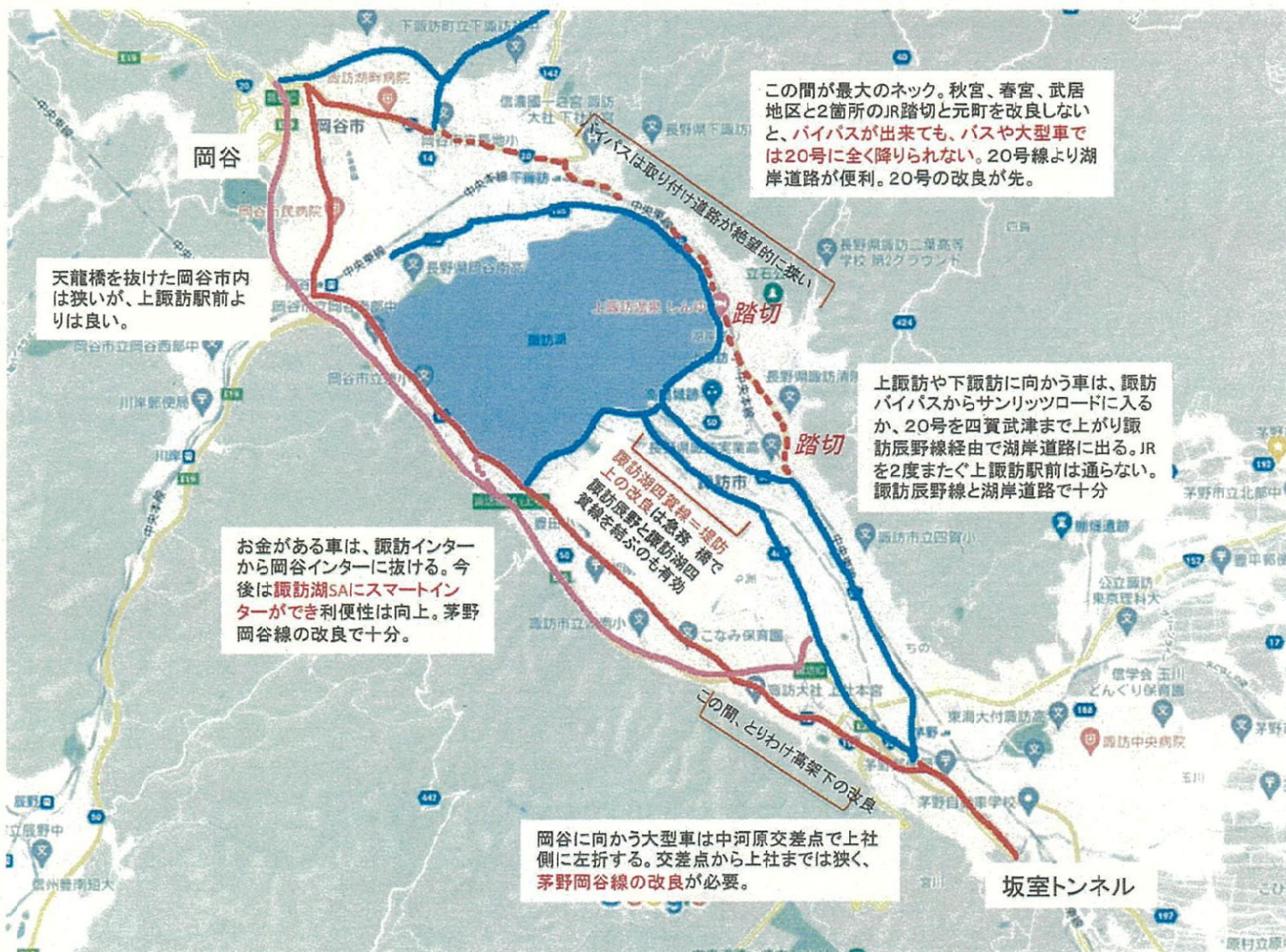
国道事務所は、湖岸道路がH18年の諏訪湖氾濫で水没したから、バイパスが必要と言いはじめた。元の計画案にはなかった後付けである。別資料で示したが、H18年の溢水は「釜口水門の操作ミスによる」と山田元諏訪市長が書いている。現在では最大放流量が430トン/秒まで改良され、河川事務所は「あのような溢水を再び起こさせない」と誇らしげに書いた。最近のゲリラ豪雨は確かに心配で、水深が7mと浅い諏訪湖は氾濫しやすく事前放流は難しいが、事前放流や流域治水や天気予報の技術も深まり、430トン放流を有効に使えば溢水は再び起きないと考えて良い。河川事務所も認めている。河川事務所と国道事務所との議論を公開して欲しい。

20年後にしか開通しないトンネルよりも、20号線や茅野岡谷線や諏訪湖四賀線の改良が急がれる。諏訪バイパス計画の存在が、20号の改良を阻害したと新聞に書かれたことは国道事務所には不幸である。1000億円はかからない、これらの道路の改良と再度の交通量調査が必要だろう。



# 諏訪湖周辺の道路事情

坂室トンネルから岡谷や下諏訪に大型車やバスで抜ける場合



地図データ ©2021 1 km